（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立愛日小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	各授業において、論理的な思考力を高めるような活動を重視し、児童のプログラミング的思考を引き出せるようにする。また、昨年度に引き続き、思考の過程を明らかにし、他者に伝えるためによりよく表現する活動（書くことを中心にした活動）を研究していくことで、児童の深い学びへとつながるようにする。	中間評価		最終評価	
環境作り		愛日スタンダード等を基にして、全学年統一した学習規律の徹底とhyper-QU の活用等による児童理解をすすめ、自己決定の場の確保や自己肯定感をもたせる学習環境を整える。 また、全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境作りを行うことで、児童が安心して学べる場を作る。				

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学　副教材「音読の森」の暗唱に意欲的に取り組んでいる。その効果もあり、教科書にある文章をすらすら読めるようになるまでに時間を要しない。また、昨年度学芸会を行ったことで、表現読みに対する意欲が高く、比較的上手にできる。	・漢字のレベルが１年生時に比べてはるかに上がり、画数も多いために細かいところを正確に覚えられるよう、また、意味に合わせた使い方ができるように指導していく必要がある。	・新出漢字の学習の際、全体指導を徹底し、反復練習を年間を通して行う。また、言葉集めや文作りの際に、同音の漢字について触れ、それぞれの意味について伝えるようにする。		
	算数	学　１年生の時に学習した基礎・基本の学習が定着している児童が多い。新しい課題に取り組む際、これまでに学習したことを活かして解決しようとする姿が見られる。	・単純に答えを発表できる児童がほとんどだが、自分の考えを言う場面となると、相手によくわかるように伝えられるよう指導していき必要がある。	・考えや意見をまとめる時間を与えたり、近くの児童と意見交換する場面を与えたりして自信をもたせ、考えを整理した上で発表できるようにする。		
3	国語	調　漢字の読み書きについては、目標値を上回っていたが、読解の領域で目標値をやや下回る結果となった。 学　書くこと・話すことなど、始め・中・終わりの構成を意識する力が十分ではない。 学　新出漢字に興味をもって学習しているが、作文などで既習の漢字を使うことは、まだ十分ではない。	・話の中心を捉えて聞いたり、質問や感想を述べたりすることが十分ではない。 ・漢字にはとても興味をもって意欲的に学習しているが、正確で丁寧な字を書くことへの意識が十分ではない。	・文の構成を意識させ、書くことも話すことも、順序を考えるようにさせる。 ・正確で丁寧な字を書くよう意識させ、文章の中で既習の漢字を使うように、書いた後に時間をかけてよく見直しを行わせる。		
	算数	調　数学的思考力については、目標値を上回っていた。 学　基礎・基本が定着している児童が多いが、単純な計算ミスをしてしまうことがある。。 学　自分の考えをまとめたり、説明したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。	・ほとんどの児童が正確に計算できるが、計算ミスを繰り返す児童が何人かいる。 ・単純な発問には手を挙げて答えるが、自分の考えをまとめて発表することが苦手な児童が多い。	・常に聞くことを意識させ、友達の意見をもう一度繰り返させたり、感想を述べさせたりする活動を継続して行う。 ・正確で丁寧な字を書くよう、繰り返し指導して定着を図る。		
4	国語	調　区の学力調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。しかし、作文については、他の領域と比べると、課題が残った。 学　話すことはできるが、読む人に伝わるように、自分の考えをまとめて、文章を書くことに課題がある。	・書く内容の中心を明確にして文章を書くことを苦手にしている。 ・話の中心を捉えて聞くことを苦手にしている児童が多い。	・ノート、ワークシートに自分の考えを書くこと、学習感想、全校朝会の講話、日記の内容など、様々な場面で自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・ペア学習、グループ学習などの機会を多く設定し、他者の意見をメモをとりながら聞き取って、内容を理解する力を伸ばしていけるようにする。		

	算数	調　区の学力調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。しかし、計算のたし算・ひき算については、定着が十分ではない。 学　問題をしっかりと読まずに間違えたり、単位を書き忘れたり、早く終わらせることだけを考えてしまったりする傾向にある。	・文章を読み、問題に合わせて正しく立式する力が十分ではない。 ・長さを測ったり、コンパスを使ったりして、正確に作図する力が、まだ十分ではない。	・授業中、朝学習、家庭学習などで、様々な問題に取り組む機会を増やし、正しく立式する力を伸ばしていく。 ・練習問題、復習問題などで作図に取り組む回数を増やしていく。		
5	国語	調　区の学力調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。漢字の読み書きについては、繰り返し指導を行い定着を図ってきたことにより、力を伸ばすことができた。 学　「意見文を書く」の単元で大きく数値が下がり、苦手な児童が多いことが分かった。自分の考えをちょうどよい分量でまとめるという経験をもっと増やすなど、今後も重点を置いていく必要がある。	・漢字については、正しく読み書きできていない児童もいるため、児童間の差が大きい。 ・自分の意見や考えを書くことを苦手としている児童が多い。また、要点を捉えてとめることができない。	・新出漢字に関する漢字小テストを計画的に実施し、漢字の定着を図る。 ・書くことの習慣化を図るために、週に１回以上日記（作文）の宿題を出し、自分の思いや考えを書くようにする。また、原稿用紙の使い方等についても指導していく。		
	算数	調　区の学力調査では、全ての領域で目標値を上回っていた。計算での簡単なミスに注意することを普段の指導でも意識させてきたことで、正しく計算する力も定着してきている。 学　折れ線グラフの単元にはやや課題が見られた。グラフに表された情報を正しく読み取って理解したり、情報をグラフに分かりやすく整理したりすることに背積極的に取り組ませていく必要がある。	・小数と整数の学習では、位をそろえて計算することを忘れている児童がいた。また、小数点の位置の確認が不十分な児童が多かった。 ・自分の考えを周りに分かりやすく伝えることが苦手である。	・見直しを徹底するよう声を掛ける ・単元毎にレディネステストを行うことで、児童の実態を把握し、今後も習熟度別指導をより一層推進する。 ・学習形態を工夫し、自分の考えを表現する場を意図的に設定していく。		
6	国語	調　区の学力調査では、目標値を上回っていたものの、得手不得手がはっきりと表れていた。内容としては漢字の書き取りが特に苦手で、日々の漢字の学習を通して定着を図っていく必要がある。 調　「書くこと」の単元を年間計画の中で重点的に指導してきた結果、書く力を伸ばすことができた。しかし、「作文」の単元だけは目標値を下回った。 学　文章を書くことに対して苦手意識は低くなってきたが、意欲的に取り組むことができるが、段落相互の関係や、効果的な表現にまで意識が向かない児童が多い。	・漢字の書き取りを苦手にしている。 ・要点をまとめて書くことが苦手な児童が多い。 ・登場人物の心情などが直接表現されている部分は読み取れるが、そうでない表現になると読み取れないことがある。	・新出漢字の定着を図るため漢字小テストを実施していく。また、前年度までに既習の漢字は正確に書けるように復習のテストも実施する。 ・週に２回、１０分間作文を宿題として出したり、授業時間内に書く時間を設定したりする。意図的に文章を書く機会を増やしていくことで、表現力をさらに伸ばせるようにしていく。 ・ペア学習やトリオ学習などの学習形態の工夫を通して、自分の考えを友達と共有する時間を設ける。		
	算数	調　区の学力調査では、ほとんどの領域で目標値を上回っていた。条件に応じて合同な図形を描くことに課題が見られた。 調　区の学力の正答率度数分布から、学力の分散傾向が見られるが分かった。課題のある児童へのフォローを個別に行ってきたことで成果が上がっているが、習熟が十分でない児童が見られる。 学　学習内容を理解しているが単純な計算ミスをしてしまうことがある。 学　学習内容が難しくなってきたこともあり、内容の定着が十分でなかった児童が既習事項を活用することが難しくなってきている。	・繰り上げや繰り下げなど簡単な計算で間違うことがある。桁数が増えると、計算の処理に戸惑う児童が多い。 ・丁寧に作図することが苦手な児童が多い。 ・既習事項が定着していない児童が、それらを活用しなければいけない問題に対して苦手意識を持ってしまう。	・練習問題で作図に取り組む回数を増やしていく。 ・様々な学年のフォローアップワークシートなどを活用して既習の学習内容を振り返ったり、授業の中で復習したりする。 ・習熟度別指導の徹底をする。新しい単元に入る際には、レディネステストを行うが、その内容を充実させ、クラス編成やその後の習熟度別指導に役立て、学習状況に合わせて指導する。 ・苦手な分野を把握し、個別指導で苦手分野が克服できるような補充問題をさせていく。		
音楽		学　歌唱や器楽が好きで、楽しく演奏に取り組むことができる。主体的に思いや意図をもって表現し、実現するための技能は十分ではない。	・歌唱の技能に個人差がある。 ・難易度の高い課題に取り組んだとき、あきらめてしまう場面が見られる。 ・音楽表現を工夫することに対して、難しさを感じている児童がいる。	・音楽の基礎・基本となる技能を楽しく身に付けることができるよう、発達段階に応じた指導の工夫をする。 ・自分の思いや、友達のよさに気付かせるために、グループでの活動の場を設定する。		

図工	学どの課題に対しても最後まで作品と向き合い取り組むことができる。他者の作品や活動の様子から良いところを見つけられる。	・表したい自分の思いはあるが設定時間内に完成させるのが難しい児童がいる。 ・自分の考えを持っているがそれを言葉で伝えられる児童が限られている。	・見通しを持って取り組めるように一斉指導の中で伝えるだけでなく活動の流れを板書に示す。 ・活動場面の中で考えたことを共有する時間を設定する。		
特支	学　好奇心旺盛で、児童が周囲の人間と好意的に関わろうとしている。自分の思いを言語化することができる児童も増えている。中には、自分の気持ちを言葉で伝えることができず十分ではない。	・聞く・話すルールを意識付けるようにしてきたところ、高学年児童は少しずつだが、相手を意識して話を聞こうとする気持ちが育ってきている。話すことが好きで率先して発表しようとする児童が多いが、内容を正しく聞き取ること、友達の気持ちに寄り添いお互いに話し合うことがまだ難しい。低学年児童は、話が終わるまで静かに聞くことや自分の話したいことを言葉で表現することが十分ではない。	・話を聞くとき、話すときのルールを日常的に意識付けながら対話力を高められるようにする。 ・相手の思いを受け止められるよう、必要に応じて教員が指導して共有化を図る。 ・受容的な雰囲気をつくり情緒を安定させながら自己表現を促す。 ・グループ学習などで、主語や目的を加えて話す文法表現を練習していく。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。